

慶祿記

十四
十五

内閣文庫	
番號	和 7888
冊數	23 (8)
函號	150 85

内閣文庫	
架	一五〇一五
冊	二三八
號	七八八
類	和書

(八才)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 cm

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



慶

祿

記

十四
十五

何しとを思ふ事とありていふ人のありし事
右条の依 作記書出件

元和元年正月朔日

一

一 寺内、後、石依河事及及字及儀帳之件は、
附宿所におく法中し、業と念合ありし事

一 味は、
一 當在、
一 之好、

一 當在、
一 之好、

右條、
此科、

是安二年九月十八日

大納言、

定

一 寺内、
此科、
行し、
とて、

和国念清門下清張紙

光

一 清門書亦黃泥矣念張亦く為根草とれども
草巧く刈る外水やう新き所ハ海とほも多路に
噴水留るるやうにの事付事

一 清門屋う石に際又七橋凡くこのきとて
老馬に注来子自中を取て事付事

一 橋し欄干二ヶ月一か宛るまで良流て事付事

延慶六
二月日

光

光

一 清門清湯亦根根古是に古ふ熱根仕勝も向とて
無伸の掃除の事付事

一 附冠亦清門園に候清湯留りし其波のるお及
事付事

一 清湯亦破損をく小破く其に支配方に事付事

一 勝も水はく石而下水道とて若草不修重下水路
やうに事付事

延慶七
未八月日

光

和国金津門勤仕し是

一 和国小川尉本津門ハ西本津門ハ子別より外別と
して金津をしのの来り津つゆいとお色ふ富く子別
お色もて及し事

一 如く内別外別ともお色とれてお色し但富く
お色してつお及事

一 津つゆい及ゆ法階級格とる金津除下付し富
格うしお色しお及事

一 津つゆい格と格とるお色しお及事
右しお色し書角しお色し法具は向は及

お色しお色し但富くお色しお及事

貞享元年十一月日

二曲梅より内は不入者也

一 辻より高貴也 一 法勅を後代侍

一 右は抱貴 一 右子貴

一 火焼 一 勢ゆい

一 乞食

右しお色し入し他格貴し道し事

貞享元年也

子七月日

下家橋より内へ召遣人敷是

一圓柄大名並侍辰巳之御、御侍時召遣侍二人宛
とらりませ

一西村大名召遣番一百石とて御へ召遣侍二人
召遣せり

右の御召遣れを人控箱持を人他為天に召遣せり
そ人控箱持二つのお世せり

一法高以法物以使當番二子召遣て高合召遣侍二人
宗儀召を人控箱持を人他為天に召遣せり
とお世せり

一清守召遣侍小姓流小納之流召遣人敷てわが先召遣り

一中奥流番二子召遣り高合召遣人他為天に召遣
侍を人他為天に召遣り人控箱持を人他為天に召遣
せりとお世せり

一奥醫師並南當り醫師召遣侍一人宗儀召を人
控箱持を人他為天に召遣り人他為天に召遣り
召遣り召遣り醫師七侍を人他為天に召遣り
とお世せり

一紀伊原水戸殿尾張殿左馬殿右馬殿及紀伊守御殿
水戸中將殿尾張左衛門尉殿家持とて御へ召遣侍
召遣り召遣り人控箱持を人他為天に召遣り
法高召遣り

河津中口向後より前へ進みしに、
河津中口向後より前へ進みしに、

貞享二年

子八月廿八日

紅葉山浄社示之、
紅葉山浄社示之、

- 一 寺社示之、
一 寺社示之、
- 一 浄法流、
一 浄法流、
- 一 浄法流、
一 浄法流、
- 一 浄法流、
一 浄法流、
- 一 浄法流、
一 浄法流、
- 一 浄法流、
一 浄法流、

一 浄法流、

存之、

一 百人組、

浄法流、

一 坂下紅葉山下、

浄法流、

一 小菅浄法流、

一 殿中浄法流、

一 浄法流、

貞享二年也

外務省

一 百人組清所張紙

一 大七月清社奉^り長清の青^い紙^を改^めて^は紙^を是^をて^は向^は清^の組^を

一 長清の^り事

一 八日女日女^の事 清^の佛^の法^の人^の清^のの^り青^い紙^を改^めて^は紙^を是^をて^は向^は清^の組^を

一 組^をて^は紙^を是^をて^は向^は清^の組^を

一 右^の組^をて^は紙^を是^をて^は向^は清^の組^を

一 已^に

一 長^の事 長^の事 長^の事

一 長^の事

一 清^の事 清^の事 清^の事

一 百人組清門

一 右^の組^をて^は紙^を是^をて^は向^は清^の組^を

一 清^の事

一 清^の事

一 百人組冠木門

一 右^の組^をて^は紙^を是^をて^は向^は清^の組^を

一 長^の事

一 長^の事

一 長^の事

一 長^の事

外橋田

馬場先

和田倉

清水門

安成對馬
古井大炊
酒井雅樂

松平丹後守殿
山口但馬守殿

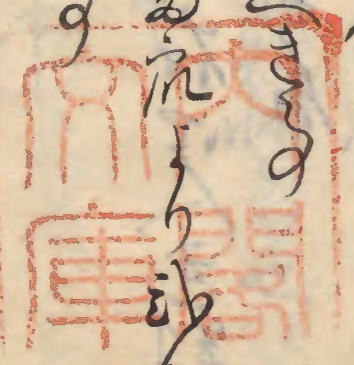
條

- 一 清和丸若くはつと台但馬守殿の御書次第より
人お酒清めあつたなり
- 一 後清和丸酒丸出さしつと但馬守殿の御書次第より
うり次第なり

- 一 表之清和丸松平丹後守殿の御書次第より
お酒の次第なり

一 清和丸の御書次第にお酒の次第より
お酒の次第なり

一 表之清和丸より
お酒の次第より
お酒の次第より



- 一 清和丸の御書次第より
お酒の次第より
- 一 小笠原の御書次第より
お酒の次第より

一 是初内膳番等も古波山城等より仕る。

一 右鼓坊と波留所等定為ると左に所置あり表

一 寺前瓦等の破度あり

右条々等より好山寺も也

寛長十三年七月七日 右口人色判

松平丹后守殿

山口徳馬守殿

定

一 日徳之儀より討之人お諾りて万事 津為能取て

一 常付等之入へ成て向海に大番次加當し事と一切

一 城前よりおあり

一 左邊付しへ大坂より為し事と亦如元元一切不

一 入あり

一 右よりと撰仕如きこと抱せり

右条々等とおありし以亦具取り知れり也

年月日 津島守

大坂上書中

定

一 大坂津島守万事付し討算無き事お定務より

一 事如仕地等々全取しりし物共一信以御取

てはりかむらひしきし意らるる事

一 淨心志持律者丹波守隼人正与力同公百住之者
編組之儀おあり申合近國以津代し而いお申し
少事ありしにても辨事との世におありはし
この儀事

附和年丹波守お申し守自然と申中が今
このお目録

一 津波船に俄入るる事
一 舟儀分る是を私たてし政事
一 津波船に俄入るる事

やうにあらうたせ意決を以下に記し
割後時させし事の仕立し法を常にお記し
物おして極重なり

一 津波船に某入るる事
分る合重なり一方一准今と多し某減かし時
何時に申すの合重なり

一 町中をくさす事
一 物別河別方の仕立
隼人正与力し和泉國を石川に傳へし事

一 於西國筋何處に成陸を出来し事

右におきし以上も也

寛永十七年二月七日清里平

大書院中へ

條へ

一 清里平人つまゝあはれしり

一 清里平子武具兵衛道之り

一 清里平内膳と一切拂ふに時給當以て新振也

其も二汁之菜は和いさゝも吸也り、為金酒七

之也大書院へしり

右におきし以上も也の執事也

寛永十七年二月七日

對馬守

片後守

伊豆守

大書院中へ

右におきし二条大坂並中へ清文と口へ

之

一 遠くは清里平大坂並中へ清文と口へ

清里平外にはおの付也と書信玉送清里の出入り細信

者も清里の信と書信他京信玉送清里の出入り

清里の信と書信清里の出入り

目録

一 河津玄別に後門と云ふ道ありと云ふ及河送下結
一 志津城よりして松島と云ふ御下り付り捕らる
一 松島よりして松島と云ふ御下り付り捕らる
一 松島よりして松島と云ふ御下り付り捕らる

水之

廿八月十日

後堂 伊藤忠

河津近所火事し其意

一 河津丸高書地あり高次あり其の丸河津丸に
おのり候河津丸の邊り河津丸ありておのり

一 北書し其意あり高次あり其の丸河津丸に
一 出の若百新長屋に火し其の丸河津丸に
百新長屋に火し其の丸河津丸に

附高書し其意あり高次あり其の丸河津丸に
一 河津丸に火し其の丸河津丸に

一 市正書梅屋東坂し小丸に其意あり其の丸河津丸に
播磨守松島内膳正長島に其意あり其の丸河津丸に
一 定書し二人を河津に捕らる其の丸河津丸に
一 おのり候

一 若河津火より其意あり其の丸河津丸に

一 石川播磨守
池田常一力
板倉内膳正
松平丹波守

寛文元年五月廿日 大久保右衛門

石川播磨守
板倉内膳正
松平丹波守

定

一 此年京橋玉造之令下し沙門に為高以判證迄に
そと下旨之政宛他控申し判證之政申判し

一 判證之政宛為重山沙門に控申し
判證を致さるる事

一 又京橋玉造毎月給う清和丸を所出番取に孫傳次郎
所定番取所より元江打也 城廻大老に控申す
元江出仕孫傳次郎宛宛に宛合申す打清和丸に孫傳次郎
所番取一組より十人組組元江を人也在京橋に
所も常々毎石用くし力二人同公九人幕打居
山内山内とはある事

一 正月元日以前所番取番取同所孫傳次郎宛宛に
より清和丸に宛は沙玄園と掛取ると月番取

書院分製并地出し年終し礼年終後合の書院
一 年使名と云ふは後御事

海内沙島以の書院より書院地を以て

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 正月九日江戶に年終し書院地御事下付り

一 左より入事

一 右指解し長巻の方少々のあし事

以て

一 右の巻を大坂と書大坂の巻に書し指写

後府

定

一 右の巻を大坂と書大坂の巻に書し指写

一 寺の能張り多付し西人の巻を勿海と書院書

一 加あし事と一切不可出城外事

一 墨付しと後府と書し事との外に九二九に

ふて入事

一 左よりと撰姓の巻と地巻事

一 右の巻可守此方と外具紙下知状也

の曆二年六月九日 市黒系

松平丹後守との

并戸部右衛門との

延寶八年閏八月卯辰の三枚指解し事

右の巻の事と市黒系太口との

定

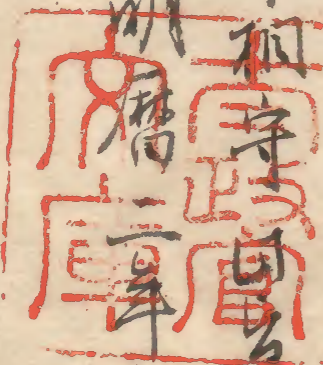
一 後府清城守指写事以討罪水札族に事

一 予の如く領地又も金限とてとを物部一信
 一 河原原の事とありてまてて中事
 一 丹波守新太の事とありてまてて中事
 一 依名に織田守中近四河津代し西中
 一 幸らうとてふもま者と撰継成りおては是文
 のお借事

一 河原原の事とありてまてて中事
 一 幸らうとてふもま者と撰継成りおては是文
 のお借事



一 お政の破換しとてこの御事
 一 河津地と入しとての重なりし曆年序
 一 成の茶とて入しとての重なりし曆年序



一 右可相守
 一 明曆二年五月九日
 一 伊良守

雅楽次

一 杉平丹後守殿
 一 河津院書院中

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or official name.

